

【褒賞申請書】

事業名称	一般社団法人札幌青年会議所 絆 創造プロジェクト
申請部門	「気高き日本」創造部門

申請LOM	北海道地区協議会 北海道ブロック協議会 一般社団法人 札幌青年会議所
LOMの人数	172 名
理事長名	池崎 潤 (いけざき じゅん)

本事業の	会員数	172
	関係者数	100
	一般参加数	265

事業実施に至った背景 (事業実施の必要性を記入)	<p>昨今、さまざまなニュースなどから、コミュニティの絆、地域住民の絆の希薄化を実感します。それは私たちのまち札幌においても例外ではありません。要因としては、インターネットの急速な普及やライフスタイルの変化、核家族化、行政の対応力の低下などが挙げられます。地域社会への当事者意識の希薄化が、子ども達が健やかに育つ環境の脆弱化を招いています。今こそ、我々青年会議所がしっかりと自分を持ち、地域に高い関心に向け、地域に愛着をもつことで生まれる帰属意識を醸成しなければならないと考えます。お互い地域の一員であるという帰属意識を醸成させることで人々のつながりが生まれ、価値観や経験を共有し互いに共感することで絆が生まれ、明るい豊かな社会を実現することができる考えます。</p>
-----------------------------	--

事業の目的	<p>(1) 札幌のまちの魅力を市民へ発信し、地域に愛着をもっていただき、人々のつながりや地域の絆をもった市民とともに、子ども達が健やかに育つ地域となるよう、積極的な変革を促します。</p> <p>(2) 帰属意識を醸成し郷土愛を育むことによって、人々のつながりや絆を構築することの重要性を認識していただきます。</p> <p>(3) 青年会議所メンバーが自ら先駆者となり、市民につながりや絆を構築することの重要性を認識していただきます。</p>
-------	---

事業の概要	<p>2013年5月25日「地域の絆創造」例会</p> <p>・志茂田景樹氏による基調講演</p> <p>志茂田氏ご自身の体験談から、地域社会との関わりあいの大切さをテーマに講演いただきました。</p> <p>・絵本読み聞かせ会</p> <p>1冊目 「ひまわりのおか」</p>
-------	---

	<p>東日本大震災によって子供を亡くした親がわが子へあてた手紙を基にした作品を、志茂田氏に感情をこめて朗読していただくことで、親子の絆、命の尊さについて感動的にお伝えしました。</p> <p>2冊目 市民共同制作絵本 「おおかみくんのレストラン」</p> <p>主人公のレストランが地域の憩いの場として広がっていく様子を描いた内容から、理想とするコミュニティの在り方と、その発展が地域の絆につながることをお伝えしました。</p> <p>3冊目 市民共同制作絵本「サンタクロースはどこにいる？」</p> <p>札幌のまちの魅力を発信しつつ、一人ひとりがコミュニティの一員であるという帰属意識を高める内容から、地域への帰属意識から生まれる、思いやりや感謝の気持ちを表現しました。</p>	
開催期間・タイムスケジュール	<p>「地域の絆創造」例会 2013年5月25日 第1回 絵本読み聞かせ会 2013年9月11日 第2回 絵本読み聞かせ会 2013年9月21日 第3回 絵本読み聞かせ会 2013年11月2日</p>	
開催場所	共済ホール 札幌市中央区北4条西1丁目共済ビル6F	
事業区分	新規事業	
公益・共益区分	公益事業	
協力団体と協力団体の参加員数	共催	
	協賛	
	後援	札幌市まちづくり局、札幌市教育委員会 NP0 法人こども共育サポートセンター、NP0 法人北海道子育て支援ワーカーズ、NP0 法人子育て支援ワーカーズプチトマト
	その他	
事業対象者	札幌市民 193万	
行動(ACTION TAKEN)	<p>(1)地域の絆とは何かという定義から始まり、講師選定を行ないました。志茂田景樹氏は、Twitterのフォロワー数は20万人を超え、「絵本読み聞かせ隊」を作り、全国で公演、読み聞かせ活動を行っており、今回のテーマに合致した人物ということで、ご講演、読み聞かせをお願いいたしました。</p> <p>(2)5月25日の例会後、市民と共同制作した絵本を製本し、市内の図書館、保育所、養護施設など合計98施設へ絵本の寄贈を行ないました。また、3施設において、青年会議所メンバーにより絵本の読み聞かせ会を行ないました。</p>	
結果(RESULTS)	<p>(1)絵本の読み聞かせが親子の絆を育み、その絆が地域の絆へ発展して行く一因であることを伝えることができました。</p> <p>(2)5月例会のアンケート結果から、青年会議所メンバー、一般市民とともに、親と子供が、一緒に心の成長を遂げなければならないことを学んでいただきました。</p>	

	(3) 絵本の登場人物に共感することによって、親・子どもがともに学びつつ、倫理観・道徳観を育む機会を提供することができました。
事業総予算・収支	<p>収入計：1,100,000 円</p> <p>支出計：1,043,314 円</p> <p>LOM 公益目的事業比率(任意)：</p>
地域社会への影響	札幌の魅力をわかりやすく紹介することで、郷土愛を育み、市民であることの帰属意識を醸成することができました。例会後のアンケート結果からも、「子ども達の感受性を育む重要性を感じた」、「周囲への思いやりの気持ちが大事と感じた」という意見をいただきました。
LOM への影響	<p>(1) 絵本制作に携わった市民と打ち合わせを重ね、完成までの苦労や喜びを共有したことにより、今 までにはなかったつながり・信頼関係を作り上げることができました。年間通じて運動を進めてきたことにより、メンバー自身、札幌市が抱える問題や街の魅力 を再認識することができました。</p> <p>(2) 5 月例会、絵本読み聞かせ運動がメディアに取り上げられ、新聞、地元経済紙から取材を受け、札幌青年会議所の運動を北海道全体に知らしめることができました。</p>
事業の長期的な影響	<p>例会で志茂田氏に読み聞かせをしていただいて終わりではなく、絵本を寄贈したことにより、これから先未来の子供たちにも読んでいただける機会を創ることができました。</p> <p>市内図書館へ制作した絵本の貸出率を調査したところ、ほぼ100%に近い近いという回答でした。</p>
考察や推奨	<p>次世代を担う子どもたちや、幅広い年代の市民に我々の運動を発信するために、絵本制作という手法を とおして継続的に絆を創造する種をまくことができました。製本化された絵本を、各施設へ寄贈することで少しでも多くの市民の皆様に触れていただき、現在抱 えている社会問題が少しでも解消されることが明るい豊かな社会の実現へ近づくのだと考えます。</p> <p>また、例会や読み聞かせ会を通じて、多くの市民に笑 顔や感動という形で絆構築の必要性を実感していただけたことは、とても意義深いものになりました。それは、一年間の目的達成のための手法として絵本の寄贈 を行ったことにより、私たちが絆構築のために種をまいた運動が、引き続き市民の皆様を受け継がれ、花を咲かせる可能性を残せたからにほかなりません。</p> <p>青年会議所運動は単年度制を軸として行われておりますが、市民の皆様を引き継ぎ、継続的にまちづくり運動を進めていける環境の構築も、今後の私たちの課題ではないかと実感しました。</p>

その他

今子ども達に必要なのは、無作為に与えられる情報を、日本人としての倫理観や道徳観を基準として、正確に咀嚼する力を身に着けることだと考えます。根底となる道徳観や倫理観を習得させるには、時間をかけながら、親と子どもがともに学びつつ、心の成長を積み重ねていかなければなりません。絵本の読み聞かせをすることで登場人物の心の変化を感じ取ることは、子どもの心の情操教育に役立ちます。そこから自分 の気持ちを踏まえて相手の気持ちを考えられる大人に育ち、その広がりが見える豊かな社会につながると考えます。